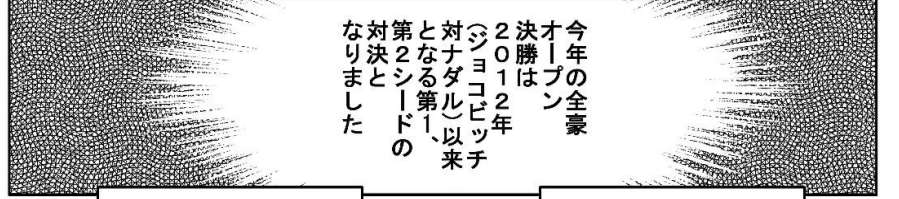


全豪2016決勝戦

監修/辻野隆三(MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順

今年の全豪
オープン
決勝は
2012年
ジョコビッチ
対ナダル以来
となる第1
の
第2シードの
対決と
なりました



アンディ・マレー

ノバク・ジョコビッチ



1987年5月15日生まれ 28歳
身長191cm/体重84kg
スコットランド・グラスゴー出身
対戦時のランキングは2位



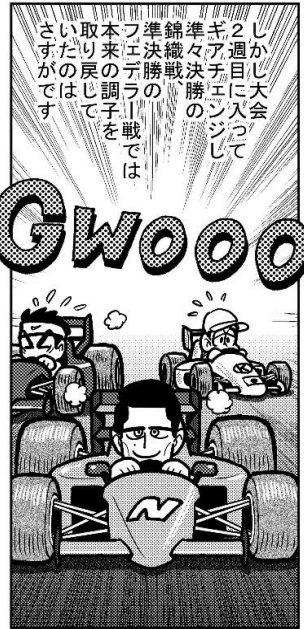
1987年5月22日生まれ 28歳
身長188cm/体重78kg
セルビア・ベオグラード出身
対戦時のランキングは1位



12人は誕生日が
同い年か
お互いをライバルと
認め合っている
問柄ですが！

この試合まで
ジョコビッチが
大きくリード
しています

どさどさ
展開なので
せうか



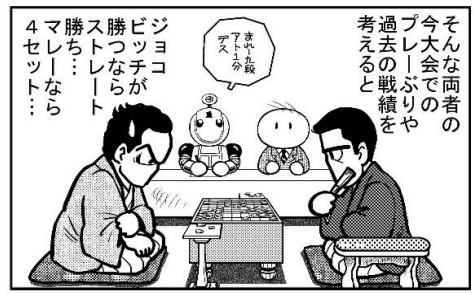
さい取り本
すがの戻り
がはして
です



今大会序盤の
ジョコビッチは
2週間前の
ATP250
ドーハ大会で
スタルを
破り優勝した
時とは対照的
に
低調
でした

ポイン
ションの
ジョコビ
ッチは
ミスば
かりと
いう
展開で
した

特に4回戦
の辛勝は
辛勝した
ものの
エアラ
ンフオ
00本の
1エラ
00本の
数が



ジョコ
ビッチ
が
勝つ
なら
ス
ト
レ
ー
ト
マ
セ
ッ
ト
は
4
マ
セ
ッ
ト
な
ら

そんな両者の
ブレイクぶりや
過去の戦績を
考えると
ジョコビッチ
が
勝つ
なら
ス
ト
レ
ー
ト
マ
セ
ッ
ト
は
4
マ
セ
ッ
ト
な
ら



対するマレーは
1回戦も負
た
あ
い
ま
し
た
と
比
較
的
に
順
調
な
進
展
を
見
せ
て
い
ま
す
印
象
的
な
戦
績
を

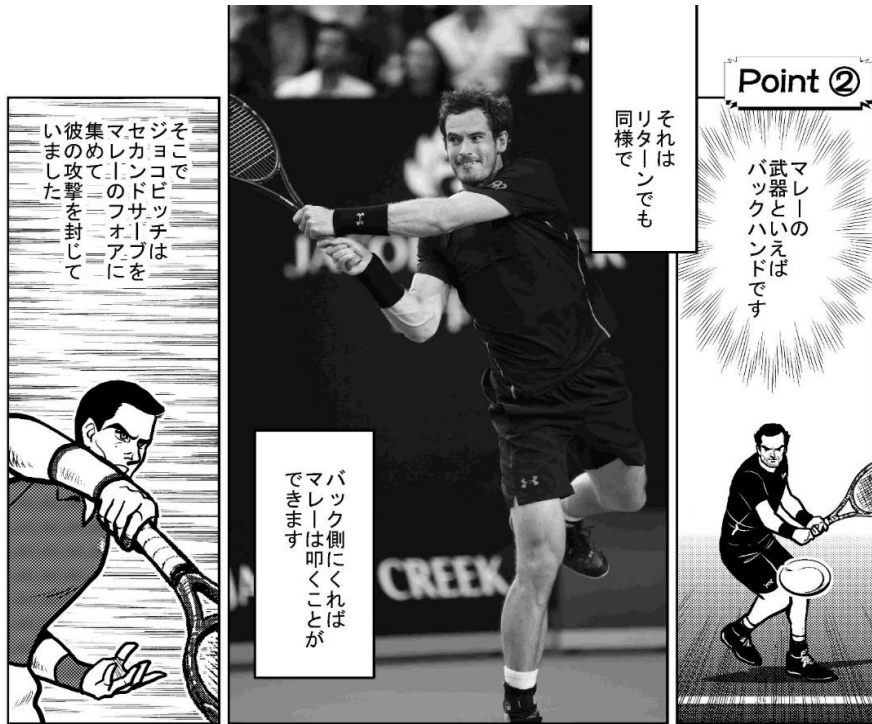
ジョコ
ビッチ
が
勝つ
なら
ス
ト
レ
ー
ト
マ
セ
ッ
ト
は
4
マ
セ
ッ
ト
な
ら



もしも
フルセットに
なったら
ジョコビッチ
かな
なんて
予想
した
な

それでは
早速試合を
分析して
まいりませう

でこずつたのは
準決勝の
ラオニッチ戦
くらい
でした
ねん



Point ②

それは
リターンでも
同様で

マレーの
武器といえは
バックハンドです

バック側に
マレーは叩く
ことができます

そこで
ジョコビッチは
セカンドサーブを
マレーのフォアに
集めて
彼の攻撃を封じて
いました

Point ①

決勝に上るまでの
2人のデータは
興味深い点は
相手のセカンド
サーブの共通
得点率が非常に
高いことである
ことです

では決勝では
どうかという
と

ジョコビッチは
53%だった
のに対し
マレーは35%と
大きく下げて
しまいました



特にデュース
サイドで
フォア側に
リターンを
打たれるのを
マレーは
相手が
嫌がって
ましたね

試合序盤に
象徴的な
シーンが
ありました



この試合
ジョコビッチ
は13フォア
が25
バックが

またジョコビッチは
次のような場合に
有利に戦っていると
進めていると
いうデータも
ありますので
今回やはり彼は
意識してマレーの
フォアを狙ったん
だと思います

試合序盤の
アンフォースト
エラーのほう
が多いのが
普通ですが
バックハンド
のほうが多い
というデータ
は少ないです

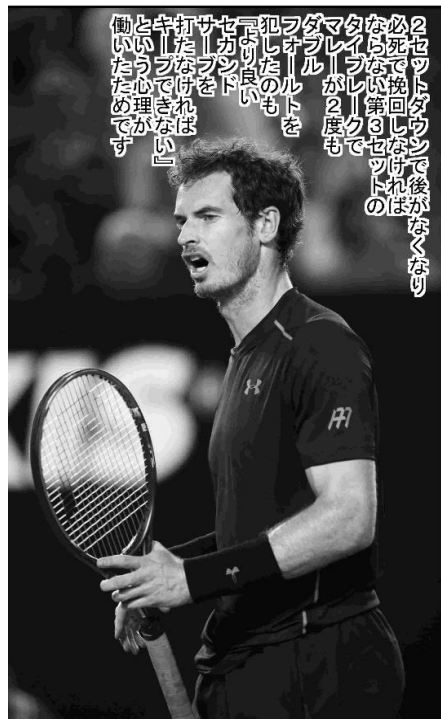


マレーのアンフォースト
エラーの数はフォアが28
バックが29

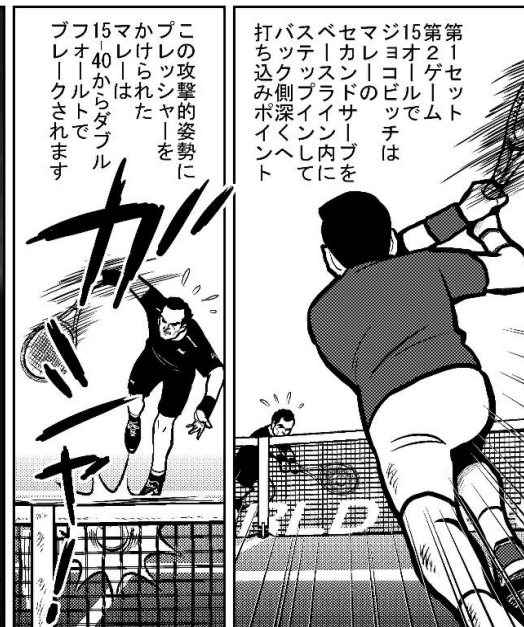
ということ
はマレーは
フォア側で
ミスが多い
わけです



①マレーのフォア
サーブの確率が
下がっている時
②マレーのフォアの
ミスが多い時



2セットダウンで後がなくなり
必死で挽回しなければならぬ
第3セットの
ダブルフォルトが2度も
ダブルフォルトを
犯したのも
セカンドサーブを
打たなければならぬ
という心理が
働いたためです



この攻撃的姿勢に
マレーは
15からダブル
フォルトで
ブレイクされます

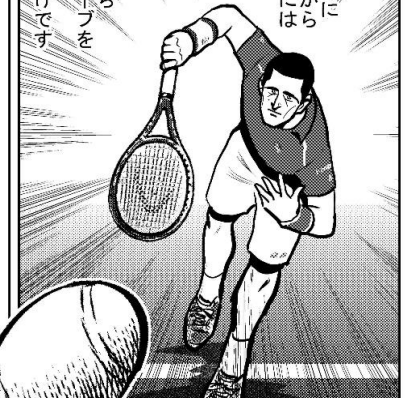

第1セット
15ゲーム
ジョコビッチは
セカンドサーブを
ベースライン内に
バック側深くへ
打ち込みポイント

Point ③



この試合のファーストサーブの確率は66%で、マレーは64%とあまり差は見られませんが...

キープするうえで非常に重要なファーストサーブですが...

この時のファーストサーブをミスしたのだけですが...

つまりファーストサーブの確率はなんと82.4%! まで入れると86.4%とさらに確率を上げていきます

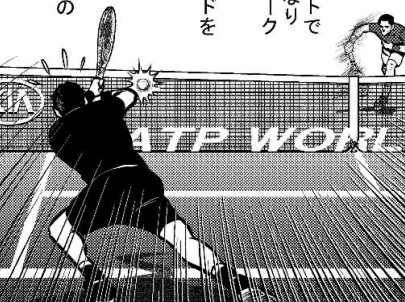
と、ここがジョコビッチは大事なところで入れているのです

例えば第3セットで3/4とマレーにリードされたからジョコビッチには3回サーブミスゲームがありました



ここ一番で相手に攻め込まれる隙を与えない

これをやろうと思っただけの最大の武器なんですね



珍しく2連続のダブルフォールトで30-40となりタイブレーク突入かと思われた嫌なムードをバックへのサーブで挽回




第3セット2-1でリードした第4ゲームでもマレーのバックに集めますが...

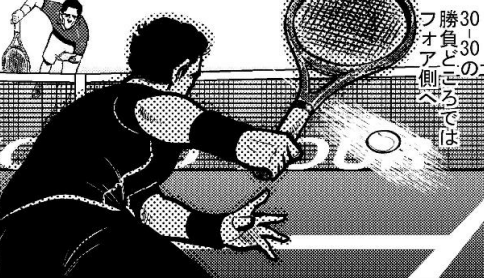



第2セットマレーのサーブを破って6-5としたジョコビッチのフォアセットでは...


しかもジョコビッチが「フォアを狙われている」というイメージを持ち始めたマレーのさらなる先を行ったことです



このように大事な局面でのサーブは、いきなり側面だけでなく、バック側にも打って、マレーにサーブのコースを予測させなかつたのです



30勝30敗の側面では...



バック側へコースを散らし、ピンチも引き出し、バック側へバックを叩きつけました

